

令和 4 年 5 月 13 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2021

課題番号：19K23254

研究課題名(和文)日本におけるエスニックヒエラルキー形成過程の解明

研究課題名(英文)The development process of ethnic hierarchy in Japan

研究代表者

五十嵐 彰(Igarashi, Akira)

大阪大学・人間科学研究科・講師

研究者番号：90844762

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では日本におけるエスニックヒエラルキー、すなわち外国人に対する好意の順序がなぜ現在の形式になっているかを検討することが目的であった。しかしながら、行った実験では当初の予想とは異なり十分な結果が出なかった。そのため方針を転換し、エスニックヒエラルキーがどのように差別的な行動に帰結するかを検証することとした。採用担当者を対象に行なった実験では、エスニックヒエラルキー上で好意的に見られていない外国人ほど、採用担当者個人の態度がより強く反映された差別行動を取られることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は採用担当者を対象にした実験としては日本初であり、今までうやむやであった差別の実態を初めて明らかにしたものである。加えて、誰の態度に基づいて差別が起こっているかを明らかにした点も社会的に意義がある。すなわち、採用担当者個人の差別的態度に基づいて行われ、社会的な態度(例えば、顧客や同僚の態度)に基づいていないことが明らかになり、特にエスニックヒエラルキー中のポジションが低い外国人ほどのその傾向が顕著である。これはつまり、社会全体の態度が好意的になったとしても雇用担当者の態度次第では差別的な雇用が残存してしまうことを意味する。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to examine why the ethnic hierarchy in Japan, or the order of positive attitudes toward immigrants, is in its current form. However, the experiment we conducted did not produce sufficient results, contrary to our initial expectations. Therefore, we decided to change course and examine how the ethnic hierarchy results in discriminatory behavior. In an experiment conducted with persons in charge of human resources, we found that foreigners who were not viewed favorably in the ethnic hierarchy are more likely to be discriminated based on the employers' own attitudes.

研究分野：社会学

キーワード：エスニックヒエラルキー 移民 差別

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、エスニックヒエラルキーの形成過程について明らかにすることを目的としていた。エスニックヒエラルキーとは、複数の外国人に対する好意の順位であり、順位は国民の間で共有されているといわれている。自身が過去に行った研究(五十嵐, 2015)では、日本人の外国人に対する順位は図1のようになっており、こうした順位は個人の特徴(保守/革新、高学歴/低学歴、高年齢/低年齢)によらず一定であることがわかっている。エスニックヒエラルキーは国民

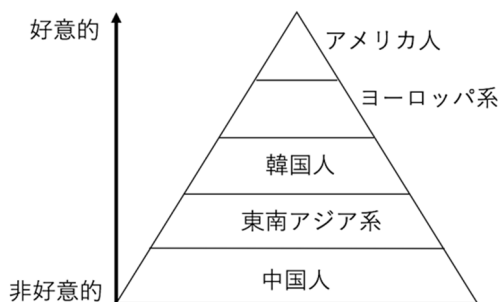


図1 日本のエスニックヒエラルキー

に広く共有された認識であり、その順位は極めて強固なとなっている。加えて、こうした順位性が排外意識や差別的な行動の発端となっていることから(Habtegiorgis, Paradies, & Dunn, 2014) ヒエラルキーがなぜ形成されるかを検討することは、国際的に移民が急増している現代において、また入国管理法改正により今後移民が増加することが予想される日本において、重要な問いであると考えられる。

では、なぜ、どのようにヒエラルキーが形成されるのか。ヒエラルキーの形成要因についての研究がほぼないのが現状である。国民と外国人との経済的・文化的な距離がヒエラルキーを形成しているといわれているが(Verkuyten & Kinket, 2000) こうした要因の影響を除去してもなお、

ヒエラルキーが揺るがないことはわかっている(Hainmueller & Hiscox, 2010)。すなわち、経済的要因や文化的要因では説明がつかない理由によって、こうしたヒエラルキーが形成されているといえる。

### 2. 研究の目的

本研究では日本におけるエスニックヒエラルキーの対象となる外国人をいくつかの要素に分解し、ヒエラルキーの順位がどの要素によって構成されているかを検討する。具体的には、まず日本のエスニックヒエラルキーの両極に位置する中国人とアメリカ人を選択する。ここでは、中国人を中国人、アメリカ人をアメリカ人たらしめる要素として「国籍」「出生地」「育成地」「両親」を想定する。4つの要素を中国人・アメリカ人で入れ替え、仮定の“中国人”や“アメリカ人”を形成する。これら仮定の外国人に対し、どういった条件が揃えば、アメリカ人が中国人よりも好まれるかを分析する。例えば両親がアメリカ出身者であれば中国出身者の場合よりも好まれるが、出生地が中国でもアメリカでも好意の度合いは変わらない、などといった結果が得られるだろう。

### 3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、図2のようなコンジョイント分析を用いて実験を行う(e.g., Hainmueller & Hopkins, 2014)。コンジョイント分析では、外国人を形成する要素をランダムに組み合わせ、仮定の外国人を2人1組で提示する。回答者は提示された文章から仮定の外国人像

外国人A		外国人B	
国籍	アメリカ籍	国籍	中国籍
出生地	中国	出生地	アメリカ
育成地	中国	育成地	中国
両親	アメリカ	両親	アメリカ
学歴	大卒	学歴	高卒
日本語	中級者	日本語	初心者

問い1. 外国人Aと外国人Bのうち、日本の居住者としてどちらがより好ましいと思いますか。好ましいと思う方に○をつけてください

外国人A	外国人B
------	------

図2 コンジョイント分析概念図

を想像し、どちらの方がより好ましいかを選択する。回答者は同様の手順を20組程度繰り返す。同様の手順を、日本人を対象としたWeb調査を用い、2,000人程度の回答者に行ってもらおう。これらの手続きにより、好ましいと考えられた外国人がどういった要素(出生地、国籍、など)を有しているかを明らかにすることができる。またこれらの要素に加え、本研究では学歴と日本語能力を同時にモデルに投入することにより、文化的・経済的要因の影響を排除する。

#### 4．研究成果

当初想定したコンジョイント分析を行ったものの、論文化するに足る結果は得られず、当初の方針を転換し、エスニックヒエラルキーをもとにした雇用差別に関する検証を行うこととなった。エスニックヒエラルキーの存在によって外国人に対する差別的態度が表出しているかを改めて検証するため、質問紙実験を WEB 調査会社に登録している企業の人事担当者に対して行った。結果から、エスニックヒエラルキーをもとにした差別が行われており、ヒエラルキーの順位に沿うような形で差別の強さが決まっていることが明らかとなった。これに加えて、順位が低い外国人に対しては採用担当者の個人の態度がより強く反映されており、逆に順位が高い外国人に対しては個人の態度は効果がなかった。これはエスニックヒエラルキー研究において従来見落とされていた点であるといえる。研究開始時の目的は果たせなかったものの、ヒエラルキー研究に対する多少の貢献を行えたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 五十嵐彰・麦山亮太
2. 発表標題 日本企業は外国人を差別しているか      サーベイ実験による検証
3. 学会等名 第70回数理社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 五十嵐彰・麦山亮太
2. 発表標題 履歴書実験において人事を対象にする必要はあるのか
3. 学会等名 第70回数理社会学会大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------